

ケアハウスに関する基礎的研究（第2報）

入居に伴う生活環境の変化と健康状態について

聖霊女子短大 ○佐藤衛子 佐藤了子 佐々木久長

〔目的〕第1報に続き、入居前の居住形態、入居に伴う生活の変化、健康状態などについて報告する。

〔方法〕第1報に同じ

〔結果〕(1)入居前の住宅形態は「持ち家(50%)」「賃貸住宅(26%)」で、いずれも満足していた人が多かった(71%)。(2)以前の居住地の方が「買い物に便利(40%)」で、ケアハウスに入居したことで「外出の機会が減った(58%)」「生活費が増えた(42%)」という変化が生じていることがわかった。(3)現在の健康状態については(5段階評価で)「3:普通(37%)」に次いで「4:あまりよくない(32%)」が多く、日常生活において身体の面で不自由を感じるものが「時々ある(37%)」とクロスした結果、全体の約1/4が問題を抱えていることがわかった。なお定期的に通院していないと答えたのは(10%)であった。(4)2/3以上の方が、同年代の人に比べて自分は「幸せ(32%)+やや幸せ(37%)」だと評価していた。(5)年収は約半数が200~300万円程度で、毎月の生活費は「8万円未満」と「20万円以上」が共に全体の約2割で最も多かった。